

岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議 (略称：旭川水辺再生戦略会議)

設立趣旨

旭川は、岡山県の中央部に位置し、その源を真庭市蒜山の朝鍋^{ひるぜん あさなべ}鷲ヶ山^{わしがせん}に発し、途中、百間川を分派した後、岡山市の中心部を流れ児島湾に注ぐ一級河川です。

旭川下流部には、岡山藩の城下町であり、江戸時代から栄えてきた政令指定都市の岡山市が位置し、この地域の社会・経済・文化の基盤を形成しています。

旭川の治水については、江戸時代に、津田永忠^{つだながただ}によって、岡山城下の水害防御と大規模新田開発の両立を図るため、旭川の放水路である百間川が造られました。しかし、その後も岡山市は幾度となく洪水の被害に見舞われ、江戸時代より進められた百間川を活用し現在も改修が進められているところです。

旭川の利用については、江戸時代の高瀬舟に始まり、昭和はじめ頃にも沿川の産業への原材料運搬や河口から市内（京橋）への定期航路として使用されていました。古くから京橋付近は、問屋や商店街が形成され、川の湊^{みなと}として賑いを見せていましたが、陸上交通機関の発達とともに次第に舟運が姿を消し、それに伴って水辺の賑わいも失われてきました。そうした状況の中で、平成元年から「京橋朝市」が市民の手によって開かれるようになり、水辺の賑わい再生の取り組みとして定着しています。

旭川周辺の観光については、旭川の水を引き込んだ回遊式庭園で日本三名園の「岡山後楽園」と烏城^{うじょう}で知られる岡山城など、美しい景観や伝統的な歴史文化を備えているものの、周辺の水辺にアクセスしにくいことに加え、必ずしも快適な歩行空間になっていないといった課題があります。また、表町から岡山後楽園周辺の回遊性の向上が課題となっています。

平成 10 年、23 年の洪水被害や、近年の激甚化する降雨等に鑑み、水害に強い安全なまちづくりを進めるものはもちろんのこと、市民の憩いの場としての水辺づくりや、歴史や文化を生かし歩いて楽しめるまちづくり、岡山中心市街地全体へ人の流れを生み出す回遊性の向上の視点も踏まえ、旭川の整備を検討する必要があります。

また、平成 26 年 11 月に岡山市と国土交通省で共同記者発表を行った「一集う・憩う・楽しむ水辺ー 旭川再生！」の取組みの具体化に向け、関係機関及び関係団体とも連携して進めていくことは、旭川の水辺の利活用促進と、岡山後楽園・岡山城周辺を中心とした魅力あるまちづくりに寄与します。

以上のことから、地域の経済界や大学、関係行政機関が一緒になって、旭川の水辺の利活用や岡山後楽園、岡山城周辺を中心としたまちづくり、それらと連携した旭川全体にわたる川づくり等について意見交換を行い、今後の河川整備やまちづくりに資する旭川の水辺再生戦略を検討するため、「岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議」(略称:旭川水辺再生戦略会議)を開催します。

